

遊美

- 1 初山 定子さんの作品と作品についての言葉
- 2 新副館長のご挨拶 鈴木 忠男
ギャラリートーク
- 3 作家探訪 アビルショウゴ先生
- 4 国内美術鑑賞旅行
デッサン講習会
- 5 美術講座 30年のあゆみ
- 6 友の会からのお知らせ
訂正/あとかき



気がつくと、ひょっこり顔をだしている草や木の芽。沈んでいた気持ちが晴れやかになって、忘れていたメロデーを口ずさみながら歩いている。時には立ち止まって、高木の揺らぎを眺めていると鳥がさえずっている。足元には、小さな花が咲いている。「一生懸命生きているの・・・」と、私に話しかけてくる様に。

そんな時アー・・・なんて平和なのだろうと、大自然の営みに感謝する。

私の藍染の絞り作品は、自然の中の形をデザインに頂いています。藍液で染めた後の、糸解きは緊張します。そして水でよくすすぎ終えた時の偶然性に喜びを感じます。

一人になっても寂しくないようにと、この道に私を導いてくれた亡き夫に感謝しつつ、昔一緒に散歩した同じ道を今ゆっくりと歩いています。

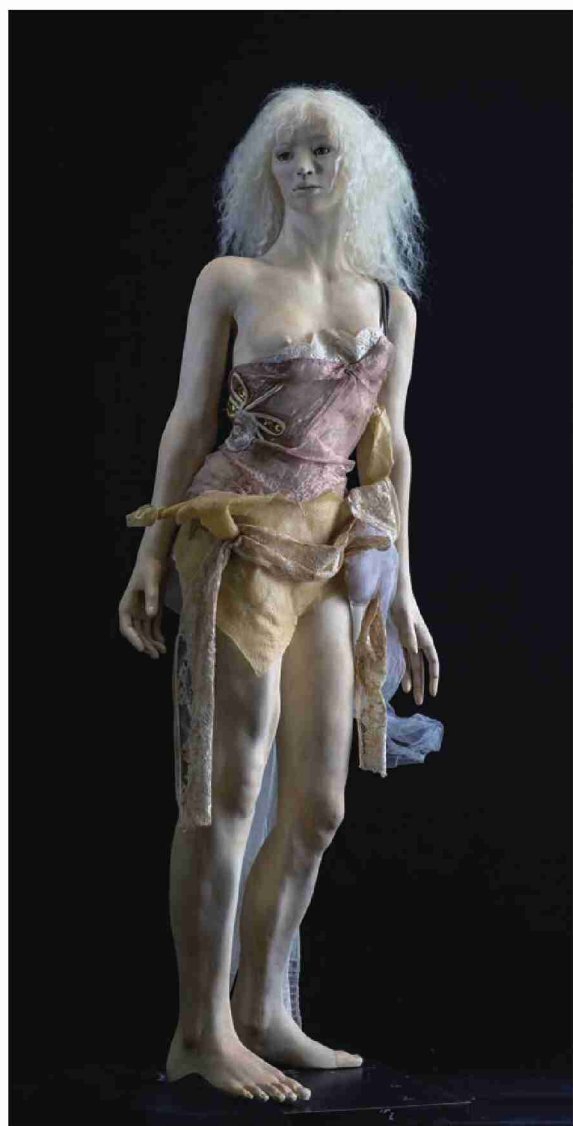
(水戸市在住)

初山定子「カンブリア紀の繁栄」

2018年／綿別珍 藍染絞り(一部柿渋染)
158×80cm／改組新5回 日展

遊美

- 1 戸田和子さんの作品と作品についての言葉
- 2-3 美術鑑賞旅行
- 4 作家探訪 竹江都志子先生
- 5 美に遊ぶ
- 6 会員のためのギャラリートーク
荒磯親方トークショー
友の会 今後の行事予定
あとがき



この作品は2011年3月15日開催予定だった【いばらき現代人形作家100人展】の為に制作しました。搬入の数日前3・11東日本大震災が発生。会場である県民文化センターが被災し中止となりました。幸い翌2012年1月に開催する事が出来ました。

出展者115名の450点を超える作品群は多くの来場者を魅了しました。その時出展した『月を抱く海 深く蒼く』は想いの深い作品となりました。

モデルは映画「ジュ・テーム・モワ・ノン・プリユ」で女優ジェーン・パーキンが演じる少年の様なジョニーです。身体を捻って振り返る立ちポーズ、彼方を見つめる瞳の中に私の記憶の断片である壮大な漆黒の海原に抱かれている蒼い月の光を重ね合わせました。拘ったのはその「瞳」です。1996年NIADA（全米人形作家協会）Conference（ダラス）に参加した際出会った“義眼”を使用しました。義眼のサイズから全体像を割り出し、身長115cmの作品が完成しました。

（ひたちなか市在住）

戸田和子「月を抱く海 深く蒼く」

2010年／石塑粘土・モヘア・義眼／115×50×31cm
写真撮影 油谷 勝

游美

- 1 内山節子さんの作品と作品についての言葉
- 2 作家探訪 荒木久夫先生
- 3 美に遊ぶ
- 4 美術鑑賞旅行
- 5 ギャラリートーク
デッサン学習会
- 6 中川純一氏講演会
緊急連絡／訂正／あとがき



内山節子「希望」

2019年／油彩・カンヴァス／F30号

友の会誌「游美」の表紙に、私の作品を掲載するようにとの連絡を頂きました。大変嬉しく光栄な事でございます。

高齢化社会を迎え、私もこの「游美」が皆様のお手元に届く頃は83歳の誕生日がまいります。毎日の生活は健康で他人様に迷惑を懸けないよう、自立する生活を送れるよう、努力しています。

絵画の制作を友として40数年、描く事がただただ楽しくて、スケッチブックをかかえての生活でした。そして洋服デザイナーとしての仕事と音楽を奏でる喜びで、「あっ」と言う間の一日が過ぎて行きます。

拙い作品を友の会の皆様にお目にかけて恐縮ですが、反面喜びでいっぱいです。私の人生の最大のエポックとなる事でしょう。

この作品の花束は私の記念日に子供たちが贈ってくれました。元気な花束をみて、急に「希望」という文字が浮かびました。『絵画は気持です』の想いでいっきに描き上げました。この作品で大きな希望を皆様と共有したいと思っています。高齢になっても希望を失わずにがんばりましょう。

(ひたちなか市在住)

遊美

- 1 吉田絹枝さんの作品と作品についての言葉
- 2 前会長、前事務局長のご挨拶
- 3 新会長、新事務局長のご挨拶
- 4 美に遊ぶ
- 5 「名画を読み解く」
心に残る私の一点
- 6 友の会からのお知らせ
あとがき



吉田絹江 ^{しゅうせん}「終然」

2019年／油彩・カンヴァス／F50

2019年茨城県芸術祭美術展覧会出品

定年を迎えやっとな趣味の時間が取れるようになりました。それまで、育児、家事、仕事と時間に追われほとんど自分の自由はありませんでしたが、好奇心は人一倍の私は、絵画、書道、手芸、旅行、音楽、園芸、と興味を持ち、実行出来る日を待ち望んで頑張ってきました。お陰様で趣味を通して沢山の方に出会い、美術館友の会も先輩から教えて頂き、数々の行事に参加して楽しい思い出が出来て、人生が豊かに感じられる生活になりました。

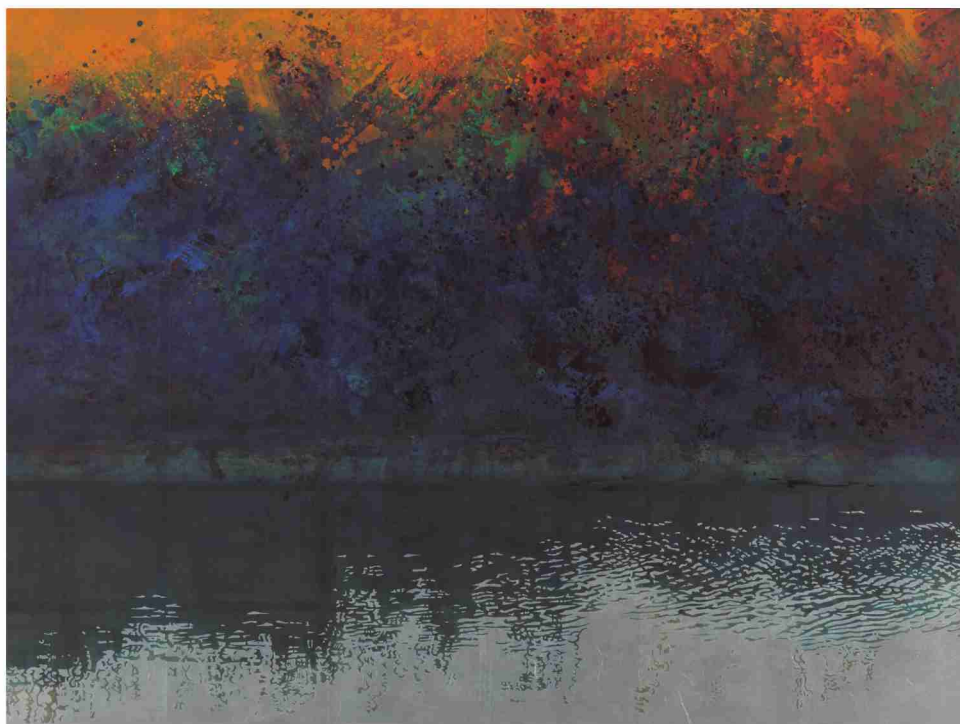
この作品は旅行先でふと目に留まった切り倒され

た丸太たちです。使い道が見つからないのか、畑の片隅、道路際に放置されていました。太陽の光を十分に浴びて伸び伸びと枝を張り、豊かに葉を茂らせていたのであろう幹の力強さ、野鳥が来てさえずり、昆虫たちも蜜を吸いに来っていたかも？ しかし今は思い出をかみしめて土に帰るのを待つかのようです。身につまされた想いで拙い筆を動かしました。激励してくれる仲間や友人、娘たちに感謝しながらこれからも続けたいと思います。

(ひたちなか市在住)

遊美

- 1 宇留野信章さんの作品と作品
についての言葉
- 2 平山郁夫展を鑑賞して
- 3 美に遊ぶ
- 4 心に残る私の一点
友の会からのお知らせ
あとがき



宇留野 信章 「君が来た」

2019年/ベニヤパネル、和紙、アクリル絵具/F300号(218.2×291.0cm)
第65回記念一陽会(2019)

非常勤の美術教師として開いた教科書の最初のページのタイトルは、「美術とは何か」。一年間で「自分の美術」を見つけていこうと書いてある。

物心ついたときからお絵描きが好きで、絵を描いていれば上機嫌。結局、いまだに描いている。見ること、描くこと、考えることで、私が今生きていることを確認できる。これが今の時点での「自分の美術」なのだが、100人いれば100人の「自分の美術」

があって、それで良いし、それだから良い。今回、いろいろな文化活動が自粛になった。でも作品制作はできる。だって、描くことは生きることなんだから。そして出来上がった作品を見て、ある時、ある人間が生きていたことを感じてうれしくなる。芸術って良い。

ちなみに作品のタイトル「君が来た」の「君」とは、「風」のことです。 (常陸大宮市在住)

游美

- 1 丸 彰さんの作品と
作品についての言葉
- 2 作家探訪 廣澤 節先生
- 3 美に遊ぶ
友の会からのお知らせ
- 4 心に残る私の一点
あとがき



丸 彰「サルスベリのある庭園」

2020年／油彩・カンヴァス／P80号(97.0×145.5cm)

この絵は、日頃散歩する笠松運動公園の庭園の池に咲くサルスベリを描いたものです。気づくと身近のあちらこちらの庭に咲いていました。夏に咲くサルスベリは色彩も微妙に様々で、派手な蛍光色でありながら実に自然に調和して美しく、惹かれます。

その発色が画面で再現できずに悶々と、未熟なままの掲載で恐縮です。花や果実の華ある自然が好みで、県の芸術祭もこのところ林檎に執着していました。2020年芸術祭は別の画題になりました。庭園

の池には睡蓮も目立たず咲いていて、これもなかなか綺麗です。

絵は学生の頃から始めましたが、厚みのあるマチエールの創り方に悩んでいます。勤めていた会社OBが集まる美術会が普段の活動の場で、県の芸術祭は3年前から応募をはじめています。近代美術館友の会では四国・中国地方の美術館巡りで、初めて大原美術館や倉敷の風情を楽しみました。

(ひたちなか市在住)

遊美

- 1 青木正雄さんの作品と作品についての言葉
- 2 作家探訪 佐藤 豊先生
- 3 美に遊ぶ
- 4 心に残る私の一点あともがき



青木正雄 「路地の朝」

2016年／写真／大全紙(490×590mm)／第71回三軌展(2019年、国立新美術館)

もう5、6年の前のこと。写友数人と佐渡を写そうということで、新潟港よりフェリーに乗った。私には初めての日本海であった。フェリーの周りは「かもめ」が右に左にと、遥かに見える佐渡の島影と重なり、シャッターを押すのも忘れる位であった。

翌朝、島の南端の小さな小木漁港を撮影した。太平洋に面した大きな茨城の漁港を見馴れているためか、小舟で魚を捕るといった漁の原点みたいな漁港であった。

港より人家へ撮影の足を伸ばすと、一瞬、すばらしい光景に出会った。いかにも漁港の集落らしい家並みの中で、花売りりと、住んでいる“おばさん”との朝の会話の真最中。撮影では人物のみでは月並みの表現となるため、敢えて小さく、漁村らしさを表現するため黒い塗装をした家並みを手前に大きく入れ、奥行きを出した。黒い家に咲く朝顔の紫と、花売りの黄色い籠とのカラーバランスはすでに頭の中にあった。(ひたちなか市在住)

游美

- 1 浜田正子さんの作品と作品についての言葉
- 2 新副館長ご挨拶
友の会からのお知らせ
- 3 作家探訪 佐川 美都里先生
- 4 心に残る私の一点
企画委員会からの報告
会員の皆様へ
【游美】原稿をお寄せください
あとがき



浜田正子「夏の朝」

2015年／油彩・カンヴァス／F80／2015年茨城県芸術祭美術展覧会出品
注) 県展出品時の画題「朱夏」を変更

絵を見るのが大好きでいつか自分でも描いてみたいと願っていたところ、幸い住まい近くに良き指導者のおられる絵の会があり、退職を機に入会することができました。楽しい人生のスタート、と思ったものです。入会初日が人物画、デッサンもままならないのに当初は怖い物知らず、絵を描く喜びでいっぱいでした。やがていろいろと学ぼううちにあまりにも未熟で苦しく、挫けそうになったり、転居などで絵の会を離れてしまったりしても会で学んだことを

糧に一人描いていました。

この絵は会に在籍中モデルさんを前に描き始めていたもののなかなかイメージ通りにならず、せめて夏の朝の爽やかな雰囲気を出そうと試行錯誤しつつ描き進めました。それが初めて県展に入選出来て、うれしい思い出の作品です。現在は夫や孫達、季節の花々などを楽しみながら描き続けています。拙い私を導いて下さった先生や絵の会の仲間達、見守ってくれている家族に感謝の日々です。(行方市在住)

游美

- 1 小石川 力雄さんの作品と作品についての言葉
- 2 作家探訪 植野 睦夫先生
- 3 美に遊ぶ
- 4 心に残る私の一点
会員の皆様へ
「游美100号」原稿をお寄せ
ください
あとがき



小石川 力雄「翔」

2020年11月20日撮影／写真／500×600mm／2021年度茨城県芸術祭美術展覧会6分科 入選

自分は毎朝のように、健康保全のためと写真撮影がしたいので偕楽園公園周辺を散策しています。ジョギングやウォーキングをしている人達が沢山いて、そのうちに、犬にひかれて歩く人・太極拳をする人たちなどで賑やかになります。

遅くとも太陽が昇る30分前には現地に着かないと、空が綺麗に焼けるのに間に合わなくなってしまいます。まだ暗いのでカメラに三脚をつけて担いで歩いています。毎朝のように行っても1日として同じ景色は無いので、飽きることはありません。

公園の春は梅に始まり桜が綺麗に咲き誇り、花畑にはポピー・矢車草・ネモフィラ・百日草・向日葵やコスモスなどが次々に咲き競い見事でしたが、ここ数年は花畑がなくなり殺風景で寂しいばかりです。

偕楽橋を千波湖へ向かって行くと湖畔の柳の木に白鷺がとまって居ました。撮っていると、空が赤く焼けているうちに風に向かって飛び立ってくれたので、良い具合に動きがあるこの写真が撮れました。

(水戸市在住)

游美

- 1 小池 恵子さんの作品と
作品についての言葉
- 2-3 『游美』100号記念寄稿
近代美術館館長 尾崎 正明
友の会会長 中川 純一
- 3 新任・退任のご挨拶
- 4 『游美』100号のあゆみ
- 5 作家探訪 立木 雅子先生
- 6 ランス美術館コレクション
若冲と京の美術
- 7 美に遊ぶ
- 8 理事会・代議員会報告
あとがき
- 9- 『游美』号別記事一覧



やすこ
小池 恵子「山百合」

2008年／パネル、雲肌麻紙、岩絵具／F20号／2009年石岡市美術展

幼い頃過した実家はお寺で、その周りを竹山が囲むようにあって、毎年7月頃になると、竹藪の緑の草むらの中に山百合の花が涼し気にあちこちに咲いて、子どもの私の目には白い花の精が現われるのかと思ったほど幻想的に映りました。その後客殿や保育園が建てられ竹山はほとんどなくなりましたが、敷地内にある古墳の林の中にまた山百合の花が咲くようになりました。退職後、小林恒岳先生のご指導を戴ける幸運に恵まれ、日本画を学ぶ事が叶った私

は、早速山百合の花をスケッチしました。先生は「大切な事は何でも良く観て描く事。花の形も前からだけでなく後の形、横向きの姿もよく観るよう、堅く閉じた蕾、咲きかけた花卉の美しさ、そして茎から出ている葉の一枚一枚、よく見つめて描く事で細やかな自然の美しさに気づくものだ」と言われ、多方面から物を見る事の大切さを教えて下さいました。この山百合の花の絵は先生から御指導を戴いた思い出に残る作品となっています。(石岡市在住)